

➤ 27日 月曜

ゼパニヤ

1:14 【主】の大きい日は近い。それは近く、すぐにも来る。【主】の日に声がある。勇士の悲痛な叫び声がある。

1:15 その日は激しい怒りの日、苦難と苦悩の日、荒廃と滅亡の日、闇と暗黒の日、雲と暗闇の日、

1:16 角笛と、ときの声の日、城壁のある町々と高い四隅の塔が襲われる日だ。

1:17 「わたしが人を苦しめるので、人々は目の見えない人のように歩く。【主】に対して罪を犯したからだ。彼らの血は、ちりのように、はらわたは、糞のようにまき散らされる。1:18 彼らの銀も、彼らの金も、【主】の激しい怒りの日に彼らを救い出せない。主のねたみの火で、全土は焼き払われる。主が地に住むすべての人をたちまちのうちに滅ぼし尽くすからだ。」

2:1 とともに集まれ、集まれ。恥知らずの国民よ。

2:2 御定めが行われて、その日が粉殻のように過ぎ去らないうちに。【主】の燃える怒りが、まだあなたがたを襲わないうちに。

【主】の怒りの日が、まだあなたがたを襲わないうちに。

2:3 すべてこの国の、主のさばきを行う柔和な者たちよ、【主】を尋ね求めよ。義を尋ね求めよ。柔和さを尋ね求めよ。そうすれば、【主】の怒りの日に、かくまってもらえるかもしれない。

主のさばきの恐ろしい様子がここに表されています。「わたしは人を苦しめ…」とありますが、実際には、苦しめた敵の軍隊であって人です。しかしユダヤの表現では、すべてのことは主の主権の中で



起きることなので、主を主語とします。

考えようによっては、主がこれら残忍な敵を止めなかったという意味で、主のみこころとして行われたという見方ができるでしょう。

いずれにしても主が止めてくださらなければ、私たちは「苦難と苦悩の日、荒廃と滅亡の日、やみと暗黒の日、雲と暗やみの日」しかないような、弱いものなのです。それを忘れないようにしましょう。それを忘れたところに、ユダヤの高ぶりと不従順、そしてさばきがあったのです。

「この国のすべてのへりくだる者よ。主を尋ね求めよ。義を求めよ。柔和を求めよ。」とは、私たちへの呼びかけです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

